"Das Leben ist wie Fahrrad fahren, um die Balance zu halten musst du in Bewegung bleiben." (Albert Einstein)

チュービンゲンは小さい町である。その証拠に、ある程度の大きさのドイツの都市ならどこにでもあるトラム (Stadtbahn) がない。そのため、チュービンゲン内の移動手段は自然と限られる。

１） 歩く

「チュービンゲンなんて徒歩でどこでも行けるけどね！」と、僕の入学した大学院のコースのパンフレットに書いてあった。その通りで、基本徒歩でどこでも行ける。やや遠方 (Hirschau, Weilheim, Derendingenなど)に住んでいる場合、町の中心まで30分以上歩かないといけないが、歩けない距離ではない。それに健康的である。気分も変わる。誰もが年をとり、歩けなくなる日が来る。歩けるときに歩いておくのがよい。

２） 自転車

チュービンゲン、というかドイツは、自転車族が多い。エコだからかもしれないし、アインシュタイン先生が「人生は自転車に乗るようなものだ」とおっしゃってるからかもしれない。何にせよ、自転車を停めるところも多く、この早く手軽な乗り物は活躍の機会が多い。問題は、日本の通称ママチャリに相当するような、価格が手ごろで乗りやすい自転車がなかなか見つかりにくいことである。どういうわけか、ハンドルが低く、サドルが高く、カゴがない、スポーツバイクが主流であり、新品は一様に高値である。カゴ、ライト、鍵など、別で買うこともできるが、それも高価である。そのため中古品に熱い視線が集まる。ebay Tübingenや、たまにあるFahrradfrohmarkt で探すことになるのだが、どっかがおかしいから中古品として出てくるわけで、“Sehr guten Zustand!“とか言われても信用せずに、ライト、ブレーキ、ギア、ベルなどが作動することを確認してから買うこと。サドルの位置が高すぎることは多くの日本人にとって問題となるので、せめて下げることが可能か確認した方がいい。パーツを別で買ってもいいが、１つ１つが中古自転車１つに平気で相当する価格なので注意したい。本当に、新品の値段を吊り上げることで中古品の循環を促し、結果的にエコを推進する政府の陰謀なんじゃないかというくらい高いのだ。

３） バス

トラムがなければバスに乗ればいいじゃない。ということで、チュービンゲンはいたるところにバスが走っており、便利である。時間には、それなりに正確である。金曜日の夜に運行が増えるところも良い。問題は乗車賃が高いことで、片道一律（大人）で2.3EURする（2016年4月現在）。1日券のTagesticketが3.9EURなので、1日に複数回乗る人はこちらを買ったほうがいい。学生であれば乗り放題のSemesterticketを買うかもしれないが、年々値上がりしており、現在84.9EURである。僕が始めて来たころは70EURしなかったことを考えると、信じられないインフラ率である。加えて、学生証があれば平日19時以降と休日祝日はSemesterticketなしでも公共交通機関が乗り放題になったので、よりSemesterticketがいらない子になってきている。それでも、半年有効なため、週1度でもTagesticketを買うくらいなら、Semesterticketを買った方がまだ安い。

学生の身分がない人は、おとなしく1か月券のMonateskarte (44.8EUR)を買うか、仕事がある人は、所属している会社でJob-ticketが買えないか聞いてみよう。Job-ticketの方がMonateskarteより安いが、会社を通してしか買えないので手に入れるのは難しい。

チュービンゲンは田舎町といえど、意外とキセルしてないかどうかのチェックが頻繁にあるので、危機察知能力に余程自信がある人でない限りタダ乗りはオススメしない。4er-karte (8EUR)だけ買っておき、バスに乗るときは常にValidateする機械の近くで待機、もしキセルチェックに遭遇したら即座に4er-karteをvalidate！それ以外はタダ乗り……という猛者に会ったことがあるが、とっさの危機に「あわわわわ……！」となってしまう僕のようなガラスのハートの持ち主は、大人しくチケットを買った方がメンタルのためである。なくしたら再発行してくれないので、買ってしまったらパスポート並に大切に持ち歩こう。

参考：http://www.swtue.de/stadtverkehr/liniennetz.html